

旧50銭と手変りと短陽光と

Aurized Coins 須崎 武

読者のみなさんの中には近代銭手変りに注目されている方もおられるかと思いますが。私もその一人で、旭日竜関連が好みて収集しております。その中から一つ紹介させていただきます。

明治三年と四年の旭日竜大型五十銭銀貨には短陽光と呼ばれる手変りがあり、さらに複合的に他の手変りも一緒に見られるモノがあります。今回は短陽光を取り上げましたが、こういった一つの視点に絡んだ手変りを探すのも楽しいかなと思っております。

なお、手変り名は『日本の近代銀貨（50銭銀貨の部）』（亀谷雅嗣編 書信館出版）を、銭名の後ろに記した数値は日本近代銀貨研究会が二〇二五年十二月に発表した分類表をそれぞれ参照しております。数値は、各年号の全体を一〇〇%とし、その存在率を表しています。

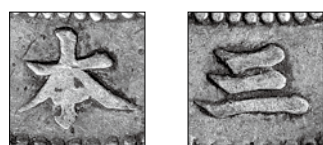
日本近代銀貨研究会では手変り研究の軌跡と称して数年毎に小冊子も発行しており、マニアックですが手変り好きには読み応えがあると思います。

①②明治三年 短陽光 太三・ハネ本・正／長銭 (存在率七・五%)

短陽光が一番よく見かけるタイプです。三字が太めで、本字の二画目は跳ねており、銭字最後の払いの長さが通常または長めになっています。短陽光とは旭日の光線（拡大図の○部分）が通常タイプより短くなっているものです。

もう一点は同タイプの傾打左八〇度です。オモテウラで角度がズレており、見つけるのもオモシロイと思います。傾打八〇度は明治三年／明治四年大型合わせた中から存在率は五%程度ですので、レア度はさらに増していると思います。

角度がズレている様子は動画（※）で確認することができます。

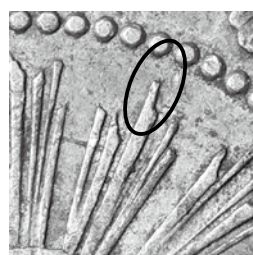
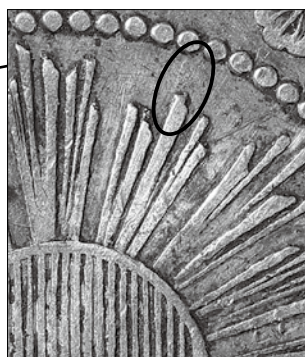


ハネ本

太三



①旭日竜 50 銭 明治3年 短陽光
太三・ハネ本・正／長銭



(左) 短陽光
(右) 正陽光 (参考)
短陽光は光線の○部分が
正陽光に比べ短い

※ <https://youtube.com/shorts/bjBfrZDg4cA>